



# 八幡小だより

北九州市立八幡小学校

校長 田頭 麗宏



## 八幡小の子どもたちは 地域で学びを広げ 深めています！

【二年 保育園訪問】



学校教育では、子どもたちが自分の人生を切り拓き、これからの社会を創り出していくために必要な力を育むことが求められています。そのためには、学校内で学ぶだけではなく、実際に社会と関わり合いながら、目標達成のために連携することが不可欠です。



【二年 市民センター見学】

【三年 いもほり体験】



子どもたちにとって最も身近な社会は、今住んでいる地域社会です。本校も、地域の方々にご理解・ご協力いただきながら、さまざまな「ひと・もの・こと」と出会い、学ぶ機会を設けています。そして、そうした地域での学びを学校で生かすようにしているのです。



【四年 環境ミュージアム見学】

【五年 デイサービス体験】



また、本校区には、休日等に地域の方々から子どもたちを育む行事・活動が数多くあります。ですから、逆に、学校で学んだことをそうした場で生かすことも重要です。このような双方向の学びは、今後さらに広い社会に関わる際の貴重な経験になると考えます。



【六年 謡曲舞台見学】

雨の日も、児童昇降口前のピロティでは元気にあいさつ運動が行われています。今は、委員会活動引継ぎ中の4年生も加わっています。さて、ピロティは



## やさしい気持ちを 行動にうつせる子どもたち

先日、北九州市教育委員会が善行の児童生徒を表彰する「福原賞」を、本校2年生児童2名が受賞しました。昨年末、下校途中に倒れていた老婦人に声をかけて救助を手伝い、救急車が来るまで付き添っていた子どもたちです。見ていた方から



から学校に電話が入り、その時の様子の説明と「ほめてあげてください」という賞賛のお言葉をいただき、本当に嬉しくなりました。

こうしたやさしい気持ちが現れた行為は、八幡小の内外で時折見

られます。以前、「八幡小だより」で紹介したことがあります。校内ではとくに、上級生が下級生を支援する姿が「当たり前」のようにあります。たとえば、二学期末のことですが、竹馬で遊んでいた下級生が誤って



### 学校事故防止のために

#### ー ピロティを滑りにくくしましたー

タイル敷きのため、雨の日などには滑りやすくなっていました。そこで、ピロティの児童昇降口周辺に、滑り止めの塗料を塗りました。事故防止に向けてこうした環境整備は必要です。同時に、子ども自身が危険を察知し、走らないよう自覚できる力も育みたいものです。

て多くの竹馬を倒した際に、さっと上級生が集まって、片付けを手伝っていました。本当に自然な姿だったのが印象的でした。

また、先日、本校の子どもが下校中に転んで足を痛めた際、通りかかった中央中の生徒（本校卒業生）が背負ってわざわざ自宅まで連れて帰ってくれた、との連絡が入りました。翌日、中学校にお礼と確認の電話をすると、自宅の方向とは違っているにもかかわらず、送ってくれたことがわかりました。日頃から、小中のつながりが深く、関わりあう機会が多いのですが、本当に素晴らしい行動だと思いました。やさしいまちで、やさしい子どもたちが着々と育っています。そして、そのやさしさが広がり、つながっています。